

輝け！シン尾花沢中

第204号
令和8年
3月14日

つたえゆかしい 校章よ おおむつましく 丘かげに

送り、引き継がれる **〇魂**

本日、第79回卒業証書授与式が挙行され、90名の卒業生が学び舎を巣立っていきました。
齊藤柚乃さんの送辞を紹介します。

通学路の雪が太陽の日差しを浴びて輝き、草木が目覚める季節となりました。

この良き日に、ご卒業される九十名の先輩方、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

一年を思い返してみると今年は、シン・尾花沢中学校へ移行する最後の年であり、一つ一つの行事に取り組む想いにも特別なものがあつたと感じました。

今年度の運動会は、二軍制最後の運動会であり、「春笑開花#紅白最後、笑顔の物語」をスローガンとして、笑顔あり、涙ありで全員が楽しんでいました。特に紅白の応援合戦は三年生が中心となり、身振り手振りを交えながら、根気強く私たち後輩を指導してくださいました。そのおかげで、私達の団結力を校内だけでなく、地域の方々にも示すことができました。

また、実行委員企画の二人三脚では、勝つために必死に練習を重ねる先輩方の姿がとても強く印象に残っています。

今年度開催された文化祭では、生徒会役員が中心となった文化祭企画「T魂～クラスTシャツ作ってみた～」が行われ、これまでに無かった独創的な企画は、私たちを楽しませクラスの仲を深めてくれました。テーマ「個星～輝く星となり、創る満点の星空を～」に相応しい取り組みで、一人ひとりの笑顔が輝いていました。合唱では、交流練習の時から私たちに的確なアドバイスを下さり、全校の合唱のレベルが、大きく向上しました。何より、本番での演奏には、さすが三年生と心を動かされました。少しの時間も惜しんで、最優秀賞を目指して日々歌いこんでいる先輩方の姿が脳裏に浮かび、これからあるべき姿を私たちに示してくれたのです。

生徒会では、「響輝～個性・自立・挑戦・感謝・感動の五つ星☆～」の生徒会スローガンをもとに、より良い学校づくりのために、みんなで意見を出し合い、活発な話し合いだったことが強く印象に残っています。自然と空気が引き締まり、責任感を持って活動に励んだことが、数々の行事や活動の成功に繋がったと思っています。

部活動では、普段は優しく、時には厳しい指導もしてくださいました。目標のために練習を重ね、情熱を傾ける姿がありました。その努力が結果に結びついた時、流した喜びの涙、報われずに流した悔し涙に、私たちは胸を打たれました。それはどちらも等しく尊い涙で、これからの私たちを奮い立たせました。先輩方のおかげで立つことが出来たステージは、ずっと私の宝物です。

今、こうして先輩方との時間を振り返ってみると、数々の行事はもちろんです。皆さんの本当のすばらしさ、優しさは、日々の何気ない瞬間にあつたのだらうと感じています。そこにはいつも笑顔で私たちを気にかけてくださっていた姿がありました。小さなことでも相談に乗ってください、会うたびに笑顔で挨拶をしてくださった先輩の姿は、私にはまぶしいほどに輝いて見えました。無心に雑巾がけをする姿も、汗をかきながら雪かきする姿も、一つ一つがこの尾花沢中学校を作り上げた礎です。私たちはその礎の上に、これからも福原中学校と統合した後のシン・尾花沢中学校へと受け継ぎ、発展させていくことを誓います。

先輩方は四月からそれぞれの未来へと進まれます。新しい場所で、希望ばかりではなく不安や迷いもあるかと思います。しかし、この尾花沢中学校で学んだ月日が、育んだ友情と信頼の絆が、きっと心の支えになるはず。この尾花沢中学校で学んだことを糧にして、これからも先輩方らしく輝いてください。

私たちは先輩方の後輩としてこの学び舎で共に成長できたことを心から誇りに思います。卒業される先輩方の新たな旅立ちが希望に満ちたものであることをお祈りして送辞といたします。

令和八年三月十四日

在校生代表 齊藤 柚乃

次号では大類鳳馬さんの答辞を紹介します。

【文責：校長 工藤雅史】

